

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	京都大学	整理番号	1811
プログラム名称	先端光・電子デバイス創成学		
プログラム責任者	杉野目 道紀	プログラムコーディネーター	木本 恒暢

卓越大学院プログラム委員会における評価

〔総括評価〕

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

〔コメント〕

卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、理学・工学・情報に亘る基礎物理から電子デバイスシステムまでの垂直統合型教育を、研究科の壁を越えた実践型・融合型カリキュラムの下、国内外の研究機関や連携企業等との指導体制を構築し、国際セミナー道場やシンポジウム、フィールド・プラクティス等多くの連携した取組を実施した点が評価できる。さらに、オランダの大学との組織的な連携についても今後大きな期待が持てる。他方、直近の募集定員や履修生総数に対して学生数が大幅に充足していない現状は、学生受入れ開始の初年度に募集定員を大きく上回る人数を受け入れていたことの反動や分野の特性等を配慮しても憂慮するものである。現状分析の下で、応募者数増加のために学部生向けの「サマーキャンプ」等のイベントやSPRING事業の優先枠など多くの施策がとられているが、一層の検討を期待する。

修了者の成長については、多くの国際学術雑誌への投稿・出版、日本学術振興会特別研究員の高い採択率および多くの受賞実績を上げている。修了者の半数以上が民間企業に就職をしており、企業関係者からも本修了生に対して高い評価を得ており、本プログラムの育成の成果が社会に認められたものとして評価できる。コロナ禍にもかかわらず当初設定されたKPIはほぼ達成されている。

キャリアパスの構築については、本プログラムが産業界から望まれている研究領域であり、企業関係者によるトランスファラブルスキル型の育成もしっかり行われており、学生の売り手市場であることから、履修学生にプログラム修了後の就職に関する不安感は低く、安心して研究・教育に専念しているように見える。また、連携機関の若手企業研究者との直接対話などが構築され、学生のキャリア育成のみならず企業研究者の育成にとってもよい関係を築いているのは評価できる。キャリアパスのための京都大学マッチングサイトを独自に立ち上げ（令和5年）、C-ENGINE、ジョブ型インターンシップにも参画していることも評価できる。これらの取組を学生がより活用できるよう、今後一層の学生向け広報等の検討が求められる。

大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、令和3年度に大学院教育支援機構を設置し、学位プログラム企画・運営・管理および産学連携に基づく大学院教育等を全学的な観点で推進する体制が組まれている。その中で、本プログラムの好事例や推進体制の強化等が図られている。さらに研究科や専攻を越えて学生の自主性のもとに履修ができ修了証が出せる大学院横断教育コースの設置も進められており、これは新たな学位プログラムの創設につながるものとして期待される。補助期間終了後も社会状況に合わせて本プログラムを継続・発展させ、学生および社会から選ばれるプログラムとしてさらに強化されることを期待する。